



志
理
亭

上

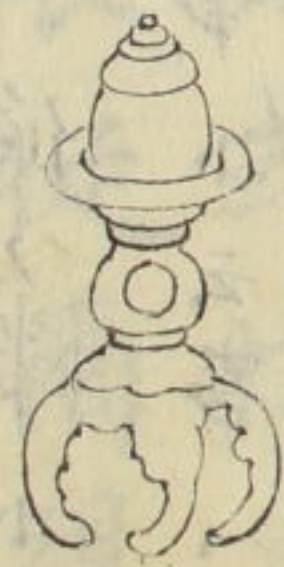
1 增 5
548
/



- 一 諸士ニ似タリ
- 一 出家ニ似タリ
- 一 蟬丸ニ似タリ
- 一 唐人ニ似タリ
- 一 醫者ニ似タリ
- 一 琉球人ニ似タリ
- 一 髭上ケアレバ蝦夷人ニ似タリ

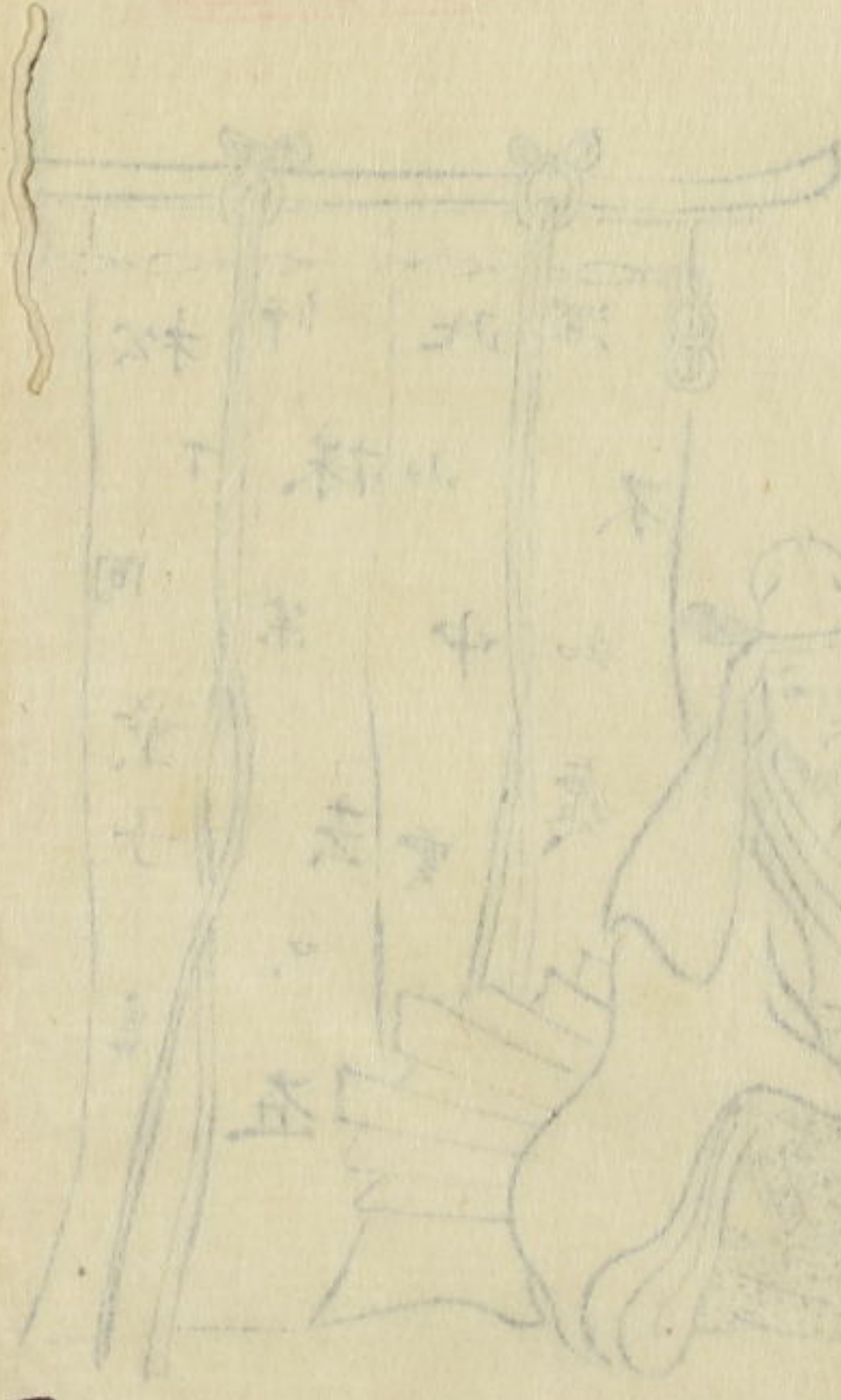


右ノ外ハ藝術ナレバ書畫ニカタク名ヲ偏負胡



松 下 問 童子 言
 採 茶 去 只 在
 仰 採 茶 去 只 在
 此 山 中 雲
 深 不 知 處

人、幼年讀書ノ初ニハ、大學或孝經ヨリイタシ候制礼ニ
可為曲事ト是レアル事ハ、死罪遠嶋追放此三ヶ條ノ事ト
公卿大夫庶人ニ至ルマテ心得罷リ有リ候曲事ト云事ハ
和別ニテハクセコト、讀ナリ此ノ三知事ノ内心得違又
可笑事モヤリ右ノ趣ヲ合點イタシテ見ルニ全躰此書ノ
至意ハ人ヲ直ニスル手段ナリ子ヨク猪口ハ胡蘿蔔ノシタシ
物ニテ御茶漬上レ



身志理事序

夫裸蟲長之為體也。何帝一見識耶。然聞
之善惡有信寡焉。虛言亦多。偏負胡先生
則為世偏負胡。每逢諸人必取其微言之
意味於耳目心。名曰三知事。今將吟裸蟲
長雖這行東西。赤子不必用他人智而知
修身終世之瞭然。其於誣罔杜撰或搶奪
竊盜者不能則悟之。謂裏則無表。從爾視
之於近世之幼童必不無小補云爾。

文化甲子立秋

伊羅奴世話 撰

夫善惡有計。譽與言亦多。而真而實。其
夫無益。身之為。豈。何。當。一。見。於。眼。也。聞
真志。野。事。氣。

予嘗謂矣。人情皆無出於好惡二字之外。
人欲之。私徒不知在己。而知在人。故不能
無譏也。賴先生貫心入肝。而其詞說盡然。
後誦其語。則將有不勝拔擢者。情慢者。其
自失之悔者矣。足短見的人者。增智不勝
為人好者。崔躍也。觀今之諸士。庸匠固不
能正直而惻隱。亦政自罕也。予雖非通人。
每觀此書。人之志。中。不過以仁儀禮智信。
合一身之內。得其理。則酒不醉人。人自醉
也。色不迷人。人自迷也。常人所專務者。有
貪心。恣而害己。奸詐。利口傷身者。或為四

書五經懸空之議論。况至塞無底坑難塞
鼻下橫陰二竅。則非素養而何也。畫虎畫
皮難畫骨。知人知面不知心也。然正心者
在眼目豁然也。讀書者莫以言不學者可
以言。蓋有以也。先生取集諸家之談話。古
人之要論者。合為論焉。庶觀者自得其語
則無不逢其意味。深玄者。猶暗夜見星也。
脉通。古人之意。應手隨試效矣。目無上手。
盲目無下手。起死迴生。知于寒熱。此則難
言之也。有能通此意者。其神妙出先生之
右必矣。或諸士為慮。助庸醫為巧者。中士

女子不意幸在目睫矣。論成求序。使其續
焉者一覽而盡得之。可以醒迷也。亦雖行
隣家可以自便。或可為養生心得之一助
云云

嘗甲子文化立秋

反覆而見寧 校

醫者ノ心ヲ得
養生ノ心得
醫者ノ穴ヲカシ
人命ホト大切ナル事ハコレナク何ニ事モ在命ヲナケレバ
ナリカク况ヤ親子兄弟コレアリ候ハク養生第一ノ事
已レトシテ起居忌節以酒為漿以妄為常以慾竭其精以
耗散其真今時ノ人ハ半白ニシテ衰ハ皆此ノ故ナリ人ノ
壽命ハ天元六十地元六十人元六十合テ百八十年ノ齡ハ
生レ得ルナリ然ルヲ醫師ノ為メニ命ヲ失セラルニ事アリ
医者モヨモヤリ思フ心アリ百病ノ生ルヤ皆生干風雨寒暑
清濕喜怒サスレバ養生ハ平日ニ有ル人ニ強ヒテ補菜ヲ
不可好養生ハ以不損為延年術補菜ヲ用レバ陰陽偏勝レテ

身志理市

養生ノ心得

偏貞胡著

醫者ノ穴ヲカシ

人命ホト大切ナル事ハコレナク何ニ事モ在命ヲナケレバ
ナリカク况ヤ親子兄弟コレアリ候ハク養生第一ノ事
已レトシテ起居忌節以酒為漿以妄為常以慾竭其精以
耗散其真今時ノ人ハ半白ニシテ衰ハ皆此ノ故ナリ人ノ
壽命ハ天元六十地元六十人元六十合テ百八十年ノ齡ハ
生レ得ルナリ然ルヲ醫師ノ為メニ命ヲ失セラルニ事アリ
医者モヨモヤリ思フ心アリ百病ノ生ルヤ皆生干風雨寒暑
清濕喜怒サスレバ養生ハ平日ニ有ル人ニ強ヒテ補菜ヲ
不可好養生ハ以不損為延年術補菜ヲ用レバ陰陽偏勝レテ

却テ病ヲ生シ虚損ノ病アラハ辨エテ補劑ヲ用ヘシ不可過
補陽ノ劑ヲ過シ候ハ真陰耗竭シテ病ヲ生ス病氣第一
醫師ヲマ子キ候ハ善惡ハ医ノ方寸ニアリ不可不擇

凡五六十年来古方家ト称シ傷寒論全遺ヲ專ラ誦シ顔ニテ
病人ノ虚脱モワマハス攻撃劑ヲ用テ害アル事多シ
丹水翁ハ傷寒論一部ヲ名譽ヲ顯シ候ヘドモ此来ハ妄ニ
命ヲ誤ラシ事ヲ恐レテ医方問餘規矩等委ク書記ニ門人ハ
傳ヘ候公ヲ相考候ヘバ余ホド人命ヲ過テ候上ノ事ト存
シラレ候今日當ニ控キ者長病ニテ取り續キカタク者病人
ナドモコレナク迎モ全快イタサス候ハ一日モ早ク黄泉ヘ
テモムキ度病人ヨリ攻撃劑ヲ相ノツミ候モノモコレアリ

或ハ賦主ニハ不限命サヘコレアリ候ハ、何々年モ在命
イタサセ度當人ハ勿論ノ事又攻撃劑ヲ相願候者仕合ヨク
全快ニ及候ハ其手際ハカリヲ覺ヘ病人ノ虚实見分テナク
相投シ今時ノ古法家ト称シ傷寒論ハカリニテ療用イタシ
候者ノ永クモテヒラレズ表微斷絶ナドハ全ク人愈ヲ誤
ル事多クコレアリ世上古方家ト呼レ候醫師病家先ニ
茶劑ヲ見候ハハ六君子逍遙散ナド調劑相見ヘコレヲハ
ヨク々人ニ害アル事ヲ會得イタシ惻隱トモ云ヘキナリ
後漢ノ張仲景ハ同郡ノ張伯祖ニ医ヲ學テ盡ク其妙ヲ得テ
傷寒論ヲ著述リ処亡散ナリ々ニナリタルヲ晉ノ王叔和
再取り立其後宋ノ林億等ヲ初校正セシメラレ金ノ世元ノ

世明ノ世清ノ世歴代ノ医師凡三十五六人論著スルトイヘトモ
明解アラズ唐人テスラ如此イワシヤ日本人一生涯及ハサル事ヲ
骨ヲリ今日世事ニモ略シク或言ニニサレツカセ心得ナカ
愚鈍ト云ヘキ傷寒論ハカリニラ療治ノ出来候ハ萬病陰陽
表裏変化逆順珍法チ法明細ニ備ハルユヘナリ名文トモ
云ヘキ去リナカフ後漢ヨリ以來世々日本へ医書渡リ候
負數何百部トモ知レカタク唐テサヘ傷寒論ハカリニテハ
療用モナリカタク歴代人良医心ツクサレ候京都吉益
療治経驗ノ方建殊録医方便覽自慢ハカリヲ書揃ヘ板行
梓候ヘトモ自分子過ハ除キコレアリ是レニハ深キ意味モ
有ルヘキ後生ノ者此ノ書ヲ療治ノイ提ミ経ト心得人命ヲ謀ル
事多カルヘシ予カ仰近ナドハ毎僻手ヒロク医書ニワタリ

病人ノ虚实明辨審察カリソメニモ偽リ不言心カヲツクシ
大氣不換金ノ類ニテ全快ニ及ヒ候者影シクコレアリ
吉益ヲ世上ニテ豪傑者ト稱スレドモ以愛己子之心愛人
陳皮一味ノ功能モ唐ヨリ傳リ聖医ノ教ヲ守リ兼種ノ強弱
脈ホモ委辨スルキ処脈ハ一向ニトリ不用仲景ハ脈等丁寧ニ
还テコレアリ脈ヲトラサルユヘ言アル事如ルヘシ其上
和方ノ紫圓ナド兼用療治ノタヌケニモイタスヘキ存シ
ヨリナラハ午庶イタシ方モ有ルヘキ事傷寒論而已ニカミワリ
此内得手勝子カクイゲトモ云ヘキ痢病最初頭痛惡寒發熱
腹痛赤白下利後重大陽陽明之合痛トテ古方家ハ葛根湯
相用ヒ後世家ハ回春ノ胃苓湯加減ニテモ全快イタシ
サスレハ人ノ強弱ニシタカヒ後世家古方家ノ論ナク投ヌヘキ

片ヨリハ害アルヘキナリ今日大丈夫ニ働キ候者ニテモ
腹部ヲ見候ハバイカヤウニモ方劑ハツキ候モノニテ脈ニハ
不抱タトハ胸膈苦満ハ柴胡湯腹中枳滯ハ建中湯或下利ノ
ツキ候腹部ニテ大黄劑相用候ハバ大腸ノ掃除ニテ
益ナキ事タマフ三月ニ下利一度位ハ日口シクモ有ルヘシ
又腹菜ニイタラストモ相カワリモコレナク医者ヨリ腹菜
イタラセ度ヤ臨氣應憂ノアイサツムキヲヨクノ相考ヘキ事
医者ヨリ脈ハカヤウ腹ハカヤウ其外見識ノマニ申シ述
菜モ余リ勸メ申サズ病家ノ心マカセ斟酌モ有ルヘシ大抵ハ
病家ヲ驚シ或ハ兵古ニマカセ空言ヲ吐キ益ノ菜ヲ腹菜
イタラセニ委^手ノ貼敷謝礼ヲマツ者コレアリ腹菜ノ内余病
出来ノセツ病氣重ク申シキカセ置候ハバ先ツ医者ニ恨ニ

ウスキ方ニモ成ルヘキ計略モコレアリ莫顯半微自作藥
不可活[。]豈可不慎与。

仕官ノ医業ノ役師弟ニ相ナリ候事益益事如何トナレハ
幼年ヨリセ括ニ相ナリタシト生長ニ及ヒ家業モ専ラ
相勒リ番入等申シツケラレ一人前ノ奉公人ト相ナリ候ヲモ
師匠ノ午前ハヤハリ若年ノ氣分放レカク病家先キニテ
医論ニ及ヒ候セツハ師匠見識ニテ彼是ト毎論ニイタリ
弟子ハ師匠ノ事工ニ斟酌イタシ切磋琢磨モサシヒカヘ
弟子ノ至劑病人ノ的中ストヘドモ師ハヲサナ別深ニ
見下シ或入欲ヲ氣サシ弟子ノ至劑ニ似ヨリタルヲ別劑
病人ヲシテ死ニイタラシム悲ヤ病家ノ死生ノ境ニ心苦シニ

医者ハ手柄マケラシニ欲心ニ意ヲヒカサレ是レハ情ノ
シカラシムル処ナラシカテ子生長ストイヘドモ師ハ別途
フカキユヘニ幼年ヨリノ氣分ニテ病論師ノ意ニソムキ
候へバ愛ノ余リヲ引替ヘテ惡ニ心出来而昧ヘハ出サレズ
自然ト合ヒ中ノ不知トモナルヘキカ此心持テ取り直シ
候モノハ有ルヲシク至人病氣ノ節ハ不忠ニモナルベシ
古人ノ語ニ医ハ仁ニチカシ利ニチカシト可嘆雖欲馬鹿
不能毎人心雖貪欲智者不能每道心此二者難於方寸之間
豈可不知所以治之乎

諸候方ニテ至人病氣ノ節ハ醫師ノ内一人用掛リト名ツケ
外医見マヒノ節アヒサツニ出サレ候モ素人不業内ユヘノ事

尤モ有ルヘシ用掛リ医者罷り出至人ノ容態是レマテノ
手医者ノ療治イタシカタ等外医ニ委細ニ申シ終シ先方ノ
論談至劑等兼リ推レハナニト申スナリニテ何ノ推レ
至劑ハ全ク御病氣の當ノ劑コレニテ急度御平愈ト申ス事ハ
不申上候イカニトナレハ用掛リ医者モ内心ニハ補中益氣ノ
類上ケ度存シ候ヘトモ側向ノ内推レ一人抽テ、尤ナル事ト
一命ヲ掛甲シ出候者モコレナク医者モ急度御平愈ト申ス
キマリコレナクマテノ、医論ニ時刻ヲ移シ手ヲウレニ
相ナリ其内外医ノ至劑用掛リ医者ノ内心ニ補益ノ劑ニ
我意符合イタシ候方ヲ至極ヨロシキダシ申シタテ調劑モ
イタサセ候アヒダヒコソ取ラテ全ク我カ療治ニテ規矩
準繩コレナク下手医者兩人ニテ日ニ轉法加減ウロクヘ

不命事トモコレアリ右外医ノ内証強ノ方ニテ主人病證ニ
的中ノ劑トイヘドモ用掛リ医者ノ意ニ符合イタサ子ハ
取りイハス其内至人大功ニ及ヒ候医業ハ利外ト申ス事
コレアリ病人數多手カケ病功深切ナラテハ用ヒカタク
今年マテ医者ヲ擇ミ見タラ候者ヲソラクハ天下ニコレナク
今時ノ医業ハ功言令色又ハ賄賂ニテ盛上リ候者多コレアリ
家業如以探育司之色欲足以察秋毫乎此ハ
世上学医ハ素人ノ尊敬イタシ先ツ病家ニテ古又ノ面白キ
難終或諸文章等ノ咄ナドイタシ亭主ノ氣配ヲ吞ミコシ
即席ニ詩作ナドイタシ候ハ病家ノ思ヒイレヨク家内ノ
病用此人ナラテハ成リカタクトラモヒ込ニ相タノミ候者ノ

心得ヘキ事アリ先ツ医者ノ生立ヲ咄ノマギレニ問ヘシ
学医ノ実父病用出精數多病又ヲ手カケ候ヤ又ハ親ニ幼年
ヨリ離レ外医ノ弟子ニ相ナリ候ヤ心ヲツケヘキ町医ナドニ
儒者ヨリ医者ニナリ候モノコレアリ儒者ニテハ今日ノ
當ニ出来カ子中年ヨリ医業ヲ心カケ朝夕見ヲホヘ候ラ
弁舌ニマカセ素人ヲタフラカシ候仕官ノ医師モ其ノ如ク
親モ余リ療用モコレナク其ノ将学問ハ經書俗語詩作等ニ
日ニ骨ヲリ療治ノ事自ラ心ニトメカタク下キナル者コレアリ
右ノ人ハノ業劑ヲ見候ハ至テ細末ニテ吾カカラノホドヲ
カクサニカクメカ演吾ノ業劑トハ大イニ相違イタシ候
先ツ試ミニ此業調合其上ハ探リ療治病家ハ此事夢ニモ
知ラスシテコトノク信仰イタシ医者ハ病家ノ蔭ニテ

ヨキ誓古ニ相ナリ病家ハ常ニ阿徇以爲容或多弁感伏
イタサセ度ノ謀略タトヘ毎ア不辨ナル者トテモ疑ヒ有
ルヘキ事医書ヲ何ニホド誦シ候テモ病ハ活物イカニモ
深切ナラザハ行キトキカクク孺者ト医書ヲ解シ候物
コレアリ日用療治ノ爲メニハナリカクク医者ハ心ヲ小ニシテ
志サシテ廣クイタスヘキカ医者ノ本意ナレヲ引カヘテ
志サシハ至ラ各ニシテ心ハ人ノ命ヲ蔑略ニ心得大膽フテキ
トモ云ヘシ或ハ病死イタシ候テモ自分過テハコレナクトモ
不思病家ニテハ約束コト或ハ過去因縁因果ツクナド
アキラメ氣メ毒千方トモ云ヘシヨクノ根トヒイタスヘシ
此ノ趣ハ不中トイヘトモ不遠各於改吝則終毎以仁術
爲仁在已也

傷寒時疫之類ハ毎日相診イタサ子ガ成リカタク病家ハ
医者ノ見マヒシケキヲ悦ヒ候ヘドモ是レニシタヒア
日ニ見舞候内病人サシテ相替ルキモ是レナク親類ナド
見マヒニ来リ何ノ誰レハ轉業イタサシヘク或ハ氣轉シテ
快方ニモ有ルヘキトテ内々ニテ導キ轉業イタシ医者ハハ
沙汰ナク業相用ヒ候分ニテサシ置医者ハサトラスシテ
日ヌト見マヒ骨ヲリ深切ニイタシ候ヤヒタ病家ニテモ
断リ申シカタク一日ト延引一理ウキレモアラ幸ニ病人
全快ニ及ヒ候ヘシ是レマデ日ヌト見舞此ノ業ニテカヤウナル
病證ハ平愈ト心得候モ医者ノ手前大イニ間違愚ハ益ク
愚ニナリ病家ニテ医者ヲ下手ニイタシ外ノ病家ノ妨ニモ
ナルヘキカ医者ヨリモ断リ申スヘキ処貪欲ノアマリ形容モ

見ワケカタク業申シ請サヘイタシ候ハ服業ト心得候モ
ウツ氣モノ是レテ療用ノ働キモ知ルハ痛家ニテ後シ口
指モサシ申スマヅク候ハ下モ不巧者トモ云ヘキカ何ニ事モ
不察則不能以上達小人徇人欲故日汗下

医業同役糸會ハ療用ノ外ハ表向急度出會イタヌヘキ酒宴
ナドハヨロシカラス他病家先ニテ酒宴ノ席ヘ加リ候我ハ
勝手シタイ自分宅ナドニテ酒宴ナド相催シ追々糸會ハ
及ヒ候内一人至テ記憶ヨク幼年ヨリ學問出精詩文章等
出来二十歳以上ヨリ自分年齢ニツキ家業ノ事エハ医道モ
少シハ心カケヘキト医書ヲ朝暮見候テモ余リ面白クモ
是レナリ其上病用モナク閑暇スキ妄念モラコリ人トナリモ

自然ト惡シクナリ其クセ向上見識世知弁ニテ學問惡少智ニ
暮リ酒宴長坐ニ及ヒ候ハ己レカ詩文エヲ鼻ニカケ座中ヲ
一統ニ見下シ傍若無人ノ振マヒ人々ノ氣ハアタル事モ
不顧人ノ顔色ヲ見トリ自分ノ手ニツキ候モノハ至テ深功ヲ
表ニ顯シ内心ハ強欲不実ニシテ自分療治ハツタナキヲ
押シ隠シ人ノ療治凡ソサグリトヒ自分療用ノ手段ニモ
イタヌヘキタクニ候志シ小人トモ云ヘキ年々テラヨリ医ノ
志サシ左モ有ルハキカク様ナルモノ数代ノ勤功ヲ以テ
仕合ヨク召出サレ立身出世イタシ候ハ下手医者頭ヲ
ソロヘテ進医如不得已將復良医踰躰医功踰躰每功不賄賂
ヤカクノ如ク下モヨリハ賄ヲ取り誰レハ医業ヨロシク
ナドニ諸向ヲ取り繕ヒ申シ連候今日療治出精ノ者ハ日々

世迄シクテ様ノ席へ氣カケ糸會モイタスへキヤ出せノ
事ユへ一際ニハ論シカタク入ノ氣配ニモヨルへキ療治
出精ノ者トリモチ候テハサシ當リ已レラカテ際ノ妨ニモ
相ナリトリイロハサル事人情トモ云へシ浸潤之潜層受想
是レ等モ有ルへキヤ仕官ノ醫師ハ療用コレナクトモ今日ノ
宮ニミサシツカヒナク自ラ家業モ油断コレアリ侍アル者ハ
續ニ書キサへ出来候ハ親ノ愛ニテナリヤリトイタシ置キ
息子モサシ當リ已レカスキ好ミ心ヲ願テ是レモ一統ニハ
申シガタク親病用コレナクユへニ自然トナリエキハヤリ
医者ノ侍ハ親病死後モ相應ニ相ツトメ候去リナカラ年齢
ニモヨルへキ寛政年中マテ三十四年以來官医ノ内出精
召出サレ候者ハ實ニ稀レニテ町医ヨリ出候医者ハ療治

一偏ニ心ヲ移シ手練トモ云へキ貴人ニ大病人コレ不ル節
医者トモ互ニ張り合此御業ニテ御平愈ト申ス事ニ相ナリ
候節善惡ハ誰レ見分候ヤ定メテ主人ノ料簡一ツニカニル
へキ或ハ主人大病ノ節ハ誰レ一人ノ料簡ニカニルへキヤ
尤スレバ平日医者并補佐ノ臣兩入へ仰セ渡サレラカレベキ
事モ是レ有ルへキヤ予カ考モコレアリ候トモ除キ申シ候
函ハ仁術學問而已ニ抱為淵鼓魚者懶也主人ノ夕メニ
愚医ヲカルモノハ臣ナリ為臣不易ニ

勅役ノ医師方ハハ小普清医師并侍等常ニ懇意ニ出入候へハ
先方モ自然ト失禮モ出来申スへキヤ其上勅役ノ威勢ニ
ホコリ世智辨カシコキ者ハ自分勝手ノ我カマナド申シ

キカセトカク昇進ナドハ金子コレナクテハ成リカタク
サナカラ自分へ音信賄賂ヲイタサレカシトハ申シガタク
折々遠マワシ或ハヨソ事ニナソテハ申シキカセ平生疎遠
ニイタシ表向一通リ出會イタシ候ハ若年小給者トイハレ
礼義ヲツクシ演舌モ互ニ慎ミ候ハ醫論ノセツ双方アナ
トテレ又病家ノ助ケニモナルハキカ或ハ又我カ家業ノ
ツタナキニ心ツケヌ只ハ昇進而已ヲ心カケ勅役ノ威勢ニ
暮リ候モノハツケコト過分ノ送り物ナドイタシ是等ノ
人ニ余會ノ節外ヨリ見聞イタシ居リ候ハ勅役ノ者ハハ
頭ヲマケホノツキ滔漚ノアリサマ見苦シク或脅肩詭笑
言^{ヤカニク}于夏蛙^{ヨシ}茅一家業ノ厚薄モワキマエヌ送り物ノ善惡
アルヒハ厚キニ心移リ其助^クへ書ツケ又ハ演舌ニテ家業

巧者ノ趣ヲ申シタラ取持イタシ候者世上多クコレアリ
以其自^レ知^ル學^ブ醫^シ至^ル先^ニ無^ク一^ノ病^ヲ功^ニ而^シ又^シ生^ル於^テ世^ニ徒^ラ足^ル以^テ譏^ス人^ヲ多^ク
辨^シ僻^ヲ而^シ在^ル筆^ノ頭^ニ是^レ謂^フ貽^ス其^ノ毒^ヲ於^テ跡^ニ也

醫業サノニ流行ハイタサス候ヘドモ毎朝玄關前某トリ
マタセ置キ候心イキハ流行醫者某トリモ大勢ナド申ス
評判モウケタク心カ病家ニテハ少シモ早ク某相用ヒ度
其思ヒヤリモナクホスヲ置コレ人ヲ欺クナリアル儒者本脚
邊ニ罷リ有リ候カ三八ヲ會日ニ定メテ大師ノサンケイノ
人々ノ目ニカタルヤウニ玄關マテ大勢ヒ書生ヲサシラキ
或張札ナドライタシ儒者ヲスラ如此況ヤ庸医ヲヤ他人
耳目ナキモノト思フ工ハ業行ニモヨルヘキ存ジナカラ

シラスフリハ禽獸トモ云ヘキカ人之所以異於禽獸者ハ
人物ノワカル工ナリ已所獨知而欲掩其欺而不可掩可
畏之甚也

医業ノ不知シテ不可事

神聖工巧

是レヲ四知ト云

望聞問切

病人ノ五藏ノ病ヲ面ノ色ニテ見ル所ヲ以テ知ルヲ望ト

イヒ 神トイフ

病人ノ声ヲ以テ病ヲ知ルヲ聞トイヒ 聖トイフ

病人常ニ好テ何物ヲ食シヤミハシメ日限等委ク尋知ル

ヲ問トイヒ 中トイフ

右ノ三術ヲツクシ脈ノ虚实陰陽寒熱ヲ分別メサダムルヲ
切トイヒ 巧トイフ

雅樂ハ人ノ心ヲ直ニスト聖人ノ教ニテ雅樂ヲ存ジナカラ
至テ貪欲イシワルキ者コレアリ 俗樂ハ世俗ノ淫樂ニテ
人ノ心ヲトラカシ候ヘドモ至テ廉直正シキ者ノモ是レアリ
尤スレバ兩ヤウ吾ガ胸中ニ折衷アルヘキ事不_レ以_レ六律
不能正_レ五音_ヲストアリ 雅樂俗樂ノ内イツレ一ト色ハ知ル
ヘキ事病人ノ声調子ワカリ兼其ノ上四知ノ内ニモカケ
病用子_テ透_ニハ_レ流_シラベワレ_ノヲ_チグサメ候_ハ毒念_モ
起ラズ都テ音曲類ハ導養神氣宣和晴志_ヲ獨座_而不_レ悶者莫
近於音聲_ニ今時ノ庸_出ナドハ閑暇_ニ毒事_ハ酒ヲ吞人ノ

善悪ウワサ吐シ或ハ茶ノ湯排踏碁将碁等ニ心苦シミ
人命ヲバ脱^脱履^履コトク心へ手過テ後悔ナトハ少シモ不思
シテ日ヲ暮シ馬鹿トモ夕ワケトモ不可勝用無功而食禄
謂之索餐世俗ニ祿盗人ト云

医者タル者主人病氣大劫ニ不患者ノモコレアルマシク
ヒイキノ引キタラシト云事モコレアリ庸医ノクセニ
王手ハ夕巧者アリ人ノ心面ヲノ如ク胸中計リカタク
齊人有一妻一妾出毎必^{アテ}厭酒肉カヘル其ノ妻妾ノ^シ出^シアリ
如此我が家内ヘスラミヘライタシ況ヤ外人ヲヤ少シノ事モ
大孫ニイヒナシ病氣モ其ノ如ク医者ノ料簡ニテ大病ニモ
相ナリタトヘバ蜂ニサレ解毒ニ沃雪或ライヤカナド

用ヒ狂者中ノ右ノ葉ナドハシモイモヨラズ芋ノ莖又ハ
和^和大^大貴^貴ノ葉ナドヲモミ付全愈アル所家ニ三歳ノ女子冬
コタツヘ足ヲ入レ火傷イタシ膏葉ナドハリツケ凡十日余リ
膿水タレ出エトノ外ナシキノ様子早速ハ愈カ子予ハ
見ヒ候工ハ柄シアトリヨセ烏ノ羽ニテ一日ニ五六扁引ク内ニ
痂出来愈外科ナドハ火毒ノコリ候ハントイヘドモ是レマデ
数多經驗火毒ノ患ナク此上ノ奇法ナシ

庸医ナドハ我カ分限ヲ不知シテ財貨タクワヘ限リナラ
誰レモ金銀諸道具郎^郎弟^弟ハ好ム処已レ一人ト心得不能^能繫^繫矩^矩
先ツ家内ノ人数ヲハカリ非常ノ手當ニ金子身分相應ニ
タクワヘ出来候ハ仁術ヲ專ラトイタシ候ヘバ施行ノ

心モ子アレバ自然ト陰徳アルハシ欲ニ際限ナキモノ
當知所當止之処自分一代ハ安舒ナルヘキ候一ドモ終ニハ
悖ヲ出ツヘシ男女奉公人モ五六年サシ置キ少シノ不調法ヲ
至トイタシ暇マ申シ付或ハ本金トリ立永ク長年ノ内ニハ
ツレノハ行ツキ候時分ノトラセ物手當ナトシ恪ニ幸ト
存シ或ハ好乘人弊其本目而未異欲之所誘者獨在於是
以其心尚明於他而獨暗於此与

仕官ノ医師ハ宛行ナカバ乘棄ノタスクニモイタスヘキ處
却テ奉公人ノ飲食マテモ減少イタシ春秋カギリアル事ヲ
不知賈胡ガ玉ヲ愛シテ已レカ身ヲ不知ト曰シ一笑スヘシ

世上ノ医者ノアリサマヲ見ルニ素人ヲ相干ニイタシ候ユヘ
勝手次第區々ノ料簡多クコレアリ依テ左ニ記ス医者
三人ノモニ此内ヲ一人ハ浮脈ト申シ一人ハ洪脈ト申シ
一人ハ虚脈ト申シ如此申シキケバ脈ヲ知ル者ト心得同意ト
思フヘシ

此脈ノ内ヲ申シ 似ヨリ 浮 實 短

候ハ内意ト心得 洪 強 微 動 細 伏

ハ跡脈ノ事也 虚 緊 牢

促 瀯 緩 濡 滑 乾 長 數
代 結 遲 弱

右ノ通り医者三人ハ見セ議定スヘシ
男女ニ常ノ脈ニ逆順コレアリ

男ハ九リ寸脈盛ナリ
女ハ右尺脈盛ナリ是常也
素人マデモ医ノ志シアル者ノシレマスキ脈充ノ通り

浮 沉 遲 數 實 細 促

医者ノ知レカタク脈充ニ記ス帯ト云ハ心持工一至テ六數ナリ

脈帶浮遲 本澄ハ風邪ニ寒邪ノ脈カソウラアル心モテ

脈帶浮緊 脾胃ニ病アル脈ナリ

沉細而乾 血虚ノ脈ナリ

弦而小緊 食積ノ脈ナリ

沉弦而浮 風邪ノ脈ナリ

濡而弱 濕ノ脈ナリ

沉弦而細 濕ノ脈ナリ

右ノ七ケ條ノ内医者三人ニテ一ケ條ノ脈三人トモニ同様
珍察イタシ候ハ恐レ入り申スヘキ此ノ外右ノ脈躰夥シク
是レアリトイヘドモ陰キ申シ候

反聞ノ脈ト云事コレアリ尺脈ヨリ手ノ表ノ方ニコレアリ
心得ヘキ事

女子月水滞リモ脈ヲ相知レ或ハ外邪ノ熱 虚熱

血熱ノ三熱モウカヒヤウコレアリ

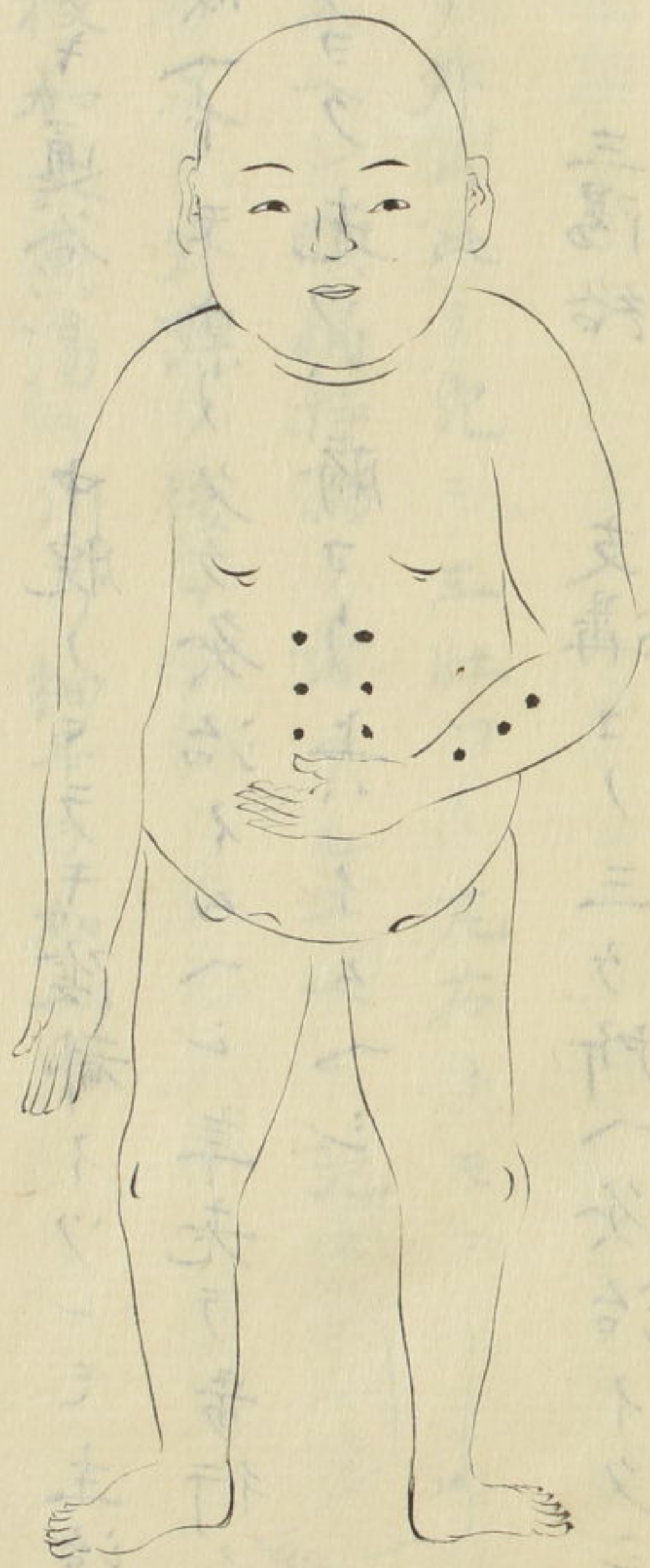
五十余ノ男子口眼喎斜半身不遂集医中風或類中風ノ珍察
右ノ病人へ積氣ノ主劑ニテ全愈コレヲハ素人マデモ心得

アルヘキ事

中風ハ東垣医学癸明ニ氣虚ニヨルトコレアリ此ノ説ヲ
ヨシトス

便毒俗ニ云カサナリ兩股ノツケ子ニ出来魚口便毒ト云ナリ
疔股バカリ出来候モノモコレアリ是レヲ横根ト云初テ
出来候節痲毒ナレバツレ股足ヘツクナリテキトコロ
ワズカ五分ホドノタカヒ是レアリ濕毒ナレバ腫ヘツキ
氣衝ノ節ヘカクルナリ全クカサニテ是レナキヲデキ處ノ
見ワケナク瘡毒ノ療治ニテ害ヲナス事コレアルユヘ記ス
相撲トリフミ出シココ子ト云事アリ濕毒痲毒ノ見ワケ
アルヘキナリ或ハ父母ヨリ肝毒傳來シテ濕毒ヘ肝毒アリ

癩起イタス事モ是レヤリヨクノ勤考スヘシ



玉苳腫痛或ハヨコ子初ララコリ骨節疼痛トテタチイニ
手ノアシヒガカシライタミ惣身タレイタミ候ハ加味
三黄丸搗目一文目ツミ土茯苓草薺ノ煎湯ニテ用ユヘシ
骨節疼痛ヲ目的トスルナリ
加味三黄丸 為辰砂衣一ト廻リ相用ヒ候内口中タミレ
是レ有ルヘキ不苦黄連ノ煎湯ニテ嗽ヘシ

大黃 附子 黃芩 沈香名 黃連 枳粉

犀角名 土茯苓名

右八味乃丸 草薺 土茯苓 各二文目 五トツ、以水五合煮取二合 五尺用上へシ 犀角ハ烏ヲヨシトス

灸治右ノ岡ノ通り鳩尾ノ下 巨闕ノヒラキ幽門

上脱ノヒラキ通谷 中脱ノヒラキ陰都ノツレモ主治

是レアリ候ハドモナリタケ灸治イムヘシ 年老テ步行ノ節息キレツヨク先ツハ脈ヨリ上ハイムヘシ

予モ四瀆 三陽絡 支溝コノ三ヶ所へ灸治イタシ

候ハバ年老ラフルへ出来大抵見合セシカルヘキ曲池ハ

害アル事ナシ

頭痛瓜邪ノ外ハ此ノ穴ニ三仕ツ、左右トモニ

灸治イタスヘシ 頭痛持病ノ者アルユヘニ記ス

則冀奢ナリ 足ノ外踝ノ後ナリ

煎湯ハ桂枝加大黃湯ニ川芎細辛ヲ加ヘシ

婦人血ノ道ナドノ頭痛ニ用テヨシ

金徳円 頭痛 痰咳 眩暈ニ用テヨシ

了子 肉桂 干姜 良姜名 茯苓名 草撥名

胡椒下 香附子名

右八味細末蜜煉リサユニテ用上

三靈湯 暑中精神ウワトリシテヤスカラサルニ用テヨシ



藿香 益智 木香

右三味熱湯ニ二度振り出し跡煎し服スヘシ

清鬱丸 腹痛積冷痛ニ用テヨシ

楊梅皮 楮椰子 胡黃連 木瓜 木香

香附子 青皮 莪朮 行腦 胡椒

耳草

右十一味各末糊丸

人馬平安散 諸葛武侯行軍祕傳 疫癘流行ノ節饑ヘシ

猪茅皂莢 牛黃 辰砂 竜腦 鷄冠雄黃

右五味細末調合

旅行ノ節草鞋クヒトラ足シラスリムキ候ニハ半夏ノ粉ヲ

飯ノリニテヲシマセハルヘシ

公義一町医師 御目見ノ義ハ病用出精ノサベツナク

奥御医師ハ弟子入りイタシ御医師ヨリ願書サシ出シ

御目見相スミ候コレ等ハ全ク名目賄賂ヲ第一トイタレ候

其決ハ安永元年ノ比奥御医師隨身ノ弟子多ク是レ有リ

イハドモ至君ノタノニ御目見相願ヒ候コトニハ是レナク

全ク當座ノ弟子入り賄賂ノトリモチニ候文ヨリ以來

此ノ風ハ有ルヘキヤ否余リマチカヒハ有ルマシクスヘテ

御目見町医師仲々間ハ同席小唱ノ平日兩箱乘與ナラテハ

同席ノ者トモ承知イタサズエハ金子余ホドコレナク

テハナリカタク不巧者ニテモ金子コレ有リ御目見願ヒ

乗乘イタシ候ハ素人目ニハ大医巧者モノトモソシ

自諸候方ヘモ罷り出候実ニ一六勝原山師ト思フヘシ是レハ

吟味ノ工風モアルヘキカ

安永五甲年麻疹流行不夕シ予公師匠方々隨身ノ薬ヲ
四月下旬ヨリ麻疹相ワズラヒ引續キ劇病ニナリ薬劑ハ
活幼心法人如味升麻葛根湯ヲ本法トイフシ引加減
服業幸ト全快ニ及候五月ニ入暑氣ツヨク病死夥シタレテ
享和四亥年麻疹流行右心得ニテ療治不夕シ候処近在ノ者
凡二百人余リ一人モ病死ナク全快ニ及ヒ其ノ節病家先キ
ニテ集医ノ業劑ヲ見候ハ初発ヨリ寒涼ノ劑ヲ相用内攻
病死ノ者多ク又幸ト全快ノ者モコレナリ候ヘドモ余毒惣身へ
出未難義イタシ候麻疹ハ属陽陽ハ発散ヲ主ルコノ事實ニ
不違初発ヨリ寒涼ノ劑相用全快ハ名ニシトコウ是レナク

候ヘドモ一生涯ノ内大折之患モアラシマ否

或人ノ咄ニ医業頗ルハタラキ有リテ閑暇ニハ医書ヲ見
又ハ吉原或ハ船遊山イタシ候工一游事相止メ療治出精
シカルヘキト云ニ醫師ノ答ニ療治出精トハ如何可心得ヤ
医業ハ釣人ト曰シ先方ヨリ病用タノメハ心カヲ盡シ候
是レヨリ日々トアテナク他行病人ヲ尋ヘキマ否医者ハ
人シラス心痛イタシ候ヘハ手透ニハ我カスキ候事ニテ氣ヲ
養ヒ候カワエカラレテ死ヌヨリハ悪クマレテ長命九ニハ
シカシ本仁賀江宇曾和寧此之謂ニ

医業上手デ信実アラバタノマダトモ病用アルベキ老医曰

去年以来病人少ク當年ノ二季ノ仕舞幣物ナク甚難儀ト云
傍童子莞爾咲曰人ノ疾病ナキコソ喜ト云ヘキ人ノ病患ラ
喜ヒ仁下可謂ヤイナマ老馬蹙額曰後生可畏

為人笑躰ニシテ日々ト他行病人ヲタツ子マワリ病用手柄
ナドハ夢ニモ不覺クマク療治ヲタセバ迂遠ニテ埒アカマ
心ヲシラス為人ノヨキニ思ヒ不レ病用ヲタノミ候者ヲ
隻蛾飛入火自滅此之謂

倒樂者ニテ病人ハ十人ノ内七八人マデハ全快ニ
及ヒ高直ノ業種モ各ナクシテ人ヲ救ヒ候者ト
孰実者ニテ其舌虚言ハ豆蔵モ不及高直ノ業種ハ

病家ヨリ前へ金ヲトリ出願自慢顔律儀一偏病用ハ
至テ下午ナル者トニ

諸士ノ心カクヘギ事ハ相應ニ寛ヘ居リ一人前ニ

孰若

侍ト
每藝ニテエビヘツラヒ大鼓モケ賄賂ヲ以テ立身
召出サレテ願ヒ候者トニ

誠ノ人タル者ハ一ツラヒナク身ニ何ニツ藝アル者ハ一見識
アリト知ルヘシ至人アル者奉公大切ニ相勅或ハ自方ノ
用向ニハ引籠ヌラクラト及臬ツカヒ麓略ニ勅メ候者トノ
見ワケナク都テ一統ニ心得差別ナキラ長唄日久羅加利

様可以様波天曾耶加惠トハ此之増歟

医業ハ人命ヲ主トイタシ候ハ幼年ヨリ藥性歌ヲ誦シテ
忘レサル様ニ心カクヘシ 四書ヲ熟讀其ノ外ハ医書ヲ専ラ
讀ムヘシ 医書ハ東垣十書陳每擇三同方薛已十六種医書
ノ五經喻嘉言医門法律先ツ荒マシ如此コノ外影シク是レ
アリ經書ハ医者ノアツカラサル事不知シテ耻辱ニモナル
マシク然ルヲ左氏傳二十一史子類ノ後論ノ面白キニ耽リ
儒者ノマ子ヲイタシ 医書ヲハ外モノトシ三十年以來町医者
ヨリ名出サレ候モノニ学医ハタク是レヲ燈批トスヘシ
方彙一冊ヲ撰クニ凡医書五六十部ノ内ヨリ二三方ツク
エラニ出シ候ホドノ事是レ等ヲ考見ルヘシ 学医ニテ止手

ナラハ鬼ニ金棒是レニツミク者ハアルマシク惣ハ虎皮
ノ續鼻禪

世ノ中ニ医者ホド不届ナル者コレナク至人ヲ試之者ニ
イタシ候如何トナレバ或諸候方ハ罷リ越シ奥医者ト對談
イタシ候處 医者年齢二十八九位ト相見ヘ候至人ノ病證
積氣或脚氣ノ容躰ニイタシ手 医者積氣ト見タテ積聚門ヲ
吟味実ニ方彙ノ爛ル事モ不厭漸至人ノ病證ニ似ヨリタル
法劑ヲ擇ミ出シ洞合ニ及ヒ手 医者ノ手前是レマデ一度モ
手カケサル病證コノキハ心ニ押シカクシ 調劑ノ業ニテ
幸ト至人全快ニ及ヒ是レ 医者ノ手前へ至人ヲ試之者ニ
イタシ外ノ病人ヘ向ク此ノココ至人病證ト同シコノ業

ヨロシキト心ニ覺一候スベテ真醫師五六人申シ付置キ
候事ハ主人若シ脚氣相煩候セツ醫師ノ内一人先年何ノ准レ
脚氣相煩其ノ節ノ容躰ト此度主人ノ病證ト符合イタシ
此薬調劑是レ先年試之經驗ノ主劑ナリ是レ朝夕ノ飲食
ニ夕ト一御賄頭ノ毒味ト可謂心ニ覺一ナキ病證モ女古
サワヤカニ言廻シ委細兼知ニテ調合ニ力ナリ内心ニハ
含笑當盆銀子頂戴ニ相違ト思ヒ其ノ心根ノフトキ事
漆桶ノ如シシバラク猶豫心ヲ翻シ座右ヲ見廻シ行キ不見
番古引當不見點此之謂ニ

一功庶飲化為百病ト云事アリ此ノ義ニ付或人ノ吐ニ先年
本町二丁目 竹内東庵ト云卑医アリ腹痛拘牽ヲ瘥ト云

腰痛惡寒モ瘥ト云淋病モ瘥ト云或時家主ノ女房二階ヨリ
落子氣絶イタシ早速東庵ヲ招キ見セ候処是レヲ油断ト云
座中一笑ス丈ヨリ評判モ惡敷病用モ是レナク衰微イタシ
余儀ナク阿波國勝浦郡ノ百姓三之助由緒モ是レ有り右方へ
尋罷リ越シ一月余リノ内近所ニ病用モ出来日ト云瘥ナリ
躰肢伊豫上佐三ヶ國マテ療治罷リ越シ九日敷三万三千
三百三十三日マカリアリ老年ニ及ヒ江戸へ帰り相果候
此之謂泥灘ニ

前記ノ通り医者ヲ見タテ候者天下ニ是レナクハ余リ
大言可得聞先年諸候ノ醫師ノ吐ニハ年前屋敷医者吟味
ノ節医者ノ筆頭へ申シツケラレ候処主人ノ為ハ少シモ

不思自分懇意ノ者ヲ申シ立テ候見レ不知已則益而有
損故ニ此義ヲ家老不悟レテ医者ニマカセ候リ世ノ嘲ニ
家老テナク百五挺ノ惡蠟ト云 医者ノ吟味ハ素人五六人
医者ノ不知者ニイタスヘキ深意アリ察スヘシ先流行医者ニ
二品アリノ医書文面ノ通り弁舌ニ述少シ虚言モ加ヘ医者ニ
ヨリ茶ヲ勸ムルモノアリノ 病人アレハ信実ニイタシ
自然ト流行イタシ候者アリノ 此ノ外至テリシヨクナル者
ハ病人ヲ診察イタシ候ヨリハ先ツ茶礼ノ有無ヲ心ニ思ヒ
候ユヘ 医術上達ハコレナク 医者ノ志サシヲ見ルニハ
不ツレ家内奉公人ノ取リ扱ヒ仁心深キ者カ医者ノ不知者ニ
吟味ヲ遂サスヘシ或主人ヨリ茶種頂戴スレハ封印ノマシ
拂物トシ封印ヲ切レバ直段ノ高下アリ可悟 医者ノ心持

仁術ナレバトテ吾が身上ノホドモ不顧施茶イタシ茶種屋
マテモ難美ニナリ候モ不厭是レ各ナル心モナケレハナラズ
度ヲ可知 病人ニヨリ一角熊膽犀角ノ類五六分モ用ユ
レバ一人ノ救ニ至テハ各ノ過タル者ハ尤コカシヲ述テ
外医へ將茶ト云一ツ年切リノ奉公人モ朝散大夫ヲモ人ヲ
救フニ至テハ同シ事ナリ病人ニ撰リ嫌ヒハ二心有ルナリ
二心ハ不美ナリ不美ノ本ハ邊羅坊ト云 病者ヨリ朝鮮
病人連モ全快コレナク趣ハ素人モ存シ候ニ 医者ヨリ朝鮮
人參五六兩用ヒサセ親ノ病氣息子トシテ用ヒ子ハ不孝ニ
アタリ人參食テ頸鎰トハ云カ是レハ病家ヲ見クテ医者モ
加ナキ事茶種屋モ不時ノアキナヒ早速者一籠寝酒ノ
口トリトナル 下利スヘキ病人モ何ニカ巧者アリアマ

フヤニ心得温補劑ヲ相用ヒ下利スヘキ趣アレハ速ニ下ス
ヘシ是レ氣ノハナレナリ 前作ノ通り医者ハ心ヲ小ニ
シテ志サシハ大ニニスルカ本意ナレトモ人ニヨリテハ
ヤウ者トシテ幾者ハ惣領ノ甚ト云 病人ヲアツカリ
候ハハ肝胆ヲクダキユ凡專ラナレハ心持ハ如何有レベキ
書面ニハ盡シガタク依テ医者ノ吟味ハ病家先キノ善惡
其ノ上平日ノ本心家内ノ所作等ヲ見聞ノ上判断スベシ
如御感心潜膺此事強得

人ノ好嫌ハ眼ニハヨラス腹中ノワサナリ 医者ナドハ別ラ
心得ヘキ事ナリ 腹内ニユアアリ 所謂蜚尸遁尸寒尸喪尸
尸住是レナリ 所傷心肝腎肺脾コノ不過五藏依テ好嫌我カ

マニ出ルナリ是レハ 酸漿ヲ用ユヘシ

酸漿ノ主治定忠益氣 利水道難産吞之立生益小兒治骨蒸
勞熱尸注麻痺瘧熱結

或人ノ味昔シ諸候方ニテ十人増シ人入用ニ付監察へ申シ付
吟味ヲ遂ケサセ十人擇ヒ出サマ 主人國老典客ト三人存
吟味イタシ候ハ十人者為人ハ至テ律義ナレトモ何レモ
每藝ナリ依テ典客合點イタサズ御供先其外何ニ事ニヨラス
臨氣應憂ノ働キ是レナキ者ハ人ノ思ヒヤリ痛キ履キヲ
シラス律義ハ唐名馬鹿ノ字ナリ再御吟味直シ可然ト云
主人曰監察ノ吟味トモ謂レカタク人柄ヨクテモ每藝ハ
用立カタク依帖モ有ルベキヤ暫ク考テ是レ好嫌ト腹中
惡虫アルユヘナリ 此ノ葉腹葉ノ上再吟味イタスヘキト

申シ渡サレ 監察頂戴披キ見レバ 酸漿ナリ 願 監察モ氣ニ
 當リ候ヘドモ 主人ノ申シ付 異義ナク 追テ 倒樂者ヲ擇ヒ
 出シ何レモ 藝術一見識コレアリ 固老ハ 不得其意 石ニ出サレ
 候上ハ 私欲ヲ專ラトイタスベキヤ 否ト患之 典容曰 倒樂者
 ナライキワタリモヨクコトサテ 藝術モアリ 心ヲ翻シ 精物
 大功ニ存ル者ナラ是レホド 第一ナル事ハ 四レナリ 此ノ義ヲ
 不思私欲不勒ノ者アラバ 拙者 愚玉トナリ 欲食為弱下利
 於塵紙ニ 主人愉快而曰 食 監察於酸漿得珊瑚珠根舟之
 謂ニ

医者ヨリ人相或年節又ハト 彙ニテ 相考療治イタシ候
 モノ是レアリ 依テ 疔ニ 荒増シ 記ス

乾ノ卦 動氣熱病 巽ノ卦 頭重下狂
 兌ノ卦 食傷虛分 坎ノ卦 邪熱氣鬱
 離ノ卦 積氣血分 艮ノ卦 氣血鬱滯
 震ノ卦 寒熱往來 坤ノ卦 腹滿胃熱
 右ノ外ニモ 判然ノイタシカタニテ 辨ハ 付候モノニテ 医者
 ヨリ 容躰ヲコトク 問ヒ 診察ノ節ハ 医者 頭ヲカクムケテ
 信実ニ 診察イタシ候ヤ 心ヲ付テ 油断スヘカラス

六病不治 輕身重財 驕恣不論理 藏氣不足 形羸不能服藥 衣食不通 信巫不信醫

医者ノ八事

志欲大 欲救人
心欲小 以人命為重不安投一劑
學欲博 察情性于人
氣欲下 不棄貧賤不嫌臭穢
業欲專 每外慕也
量欲宏 人有善則學之勿分爾我
識欲高 窮理正心
守欲潔 相贈之物貧者所不可受

医者ノ難義ナル事アリ病家ニテ親族ハ勿論者病人マデモ
迎モ全快ナキ事ハ素人ニモ見察コレアリトイヘトモ医者ニ
向ヒ候ニハ善惡ヲ問ヒ全快ト云テ病死スレバ医者ノ下手ニ
ナリ幸ト全快スレバ上手トナリ善惡ヲ不言者ハ追ノ利コヲ
云カ病入ヨリ決定シカクキ事ヲ只医者ニ善惡ヲヒクスラ
問ヒ是レホト医者ノナシキハアルマシク素人ニヘニ問フモ尤ニ

聞ヘ候ヘトモ追テ巧者不巧者ノ評義アリ医者ニヨリ
欲徳ヲ不思シテ信実ヲ盡シ死生ハ決シカタクトコロヘ
右ノ通り只管ニ死生ノ問ヒカケ候ヘバ願ヒ善心キサシ追テ
善惡ノ批判ニ預リ候ヨリハ断リテ申スガマシカト思フ者
アリ病家ニテモ是等ハ可立辨余リアレジスキ却テ病人ノ
不為ト相ナリ依テ前件ノ通り医者ヲヨクノ吟味スヘシ
世俗ニ云古方家ハ病ヲ治ヌ命ハ不預ト云此ノ語ハ全ク
寢言ニ可考

先少トナク最初ヨリ死病アリ是レ等ニテ命ハ医ノ不預
寢言アリ死病ト云ハ出生シテ痘瘡ノ粒重或ハ不出痘者
癩病ノ血脉ハ息子ニ發起セザレハ孫ニ發起ス親ノ罪ハ

子ニ報息子ノ衆ハ親ニ不報是レニテ可悟

詩者所以格物述情設教之人而不為詩其猶牆面而立也聖
言如此和歌所以格物述情設教之是レ月ニ事ナリ歌ハ假名
子ハ出来ヤスキナリ二三十年以來熟思フニ詩作ハ儒者ノ
外ハ先ツ為者ニ多クコレアリ平仄韻字ヲコトクク清シラ
即席ニ依ル工へ素人ニヨキ為者ト心得候ハ間違ナリ即席
詩作出未候ハバツレ為業ハ下手ト思フヘシ彦ニ學為
ハヒガマワラストハ此ノ謂ナリ詩ハ平仄韻字ヲ培スル
マテハ余ホド記憶ナケレハナリカタク此ノ記憶ヲ療用
生死ニ不用如何不実者カ多和モ加

先年諸候ノ老為ノ咄ニ拙者ギハ病用出精ニ付被召抱只
今ハ養子一名跡ヲ譲リ思ヒノラス事モ是ナク依ラ且那ノ
家風御咄申候医者ヲ召出ニ候ニハ主人ノ手前ハ医業且クト
甲上内澄ハイワレモ賄賂ニテ罷リ出候此ノキ主人少シモ
不心付年懿其外吟味ノイタシカタモ可有事是等主人役人
初今日毎病工へ樂モ出来病氣ニテ何ニ面白キ事可有ヤ
病氣ノ節ハ江戸中ニ頗聞候医行ヲマ子キ區々ノ料簡ノ
某服用生死トモニ其費幾許年医者在ラ如無平日役人ノ
顔色気分ノ推察イタシ候ニ医者ハ二季ノ謝禮其外賈物
アル工へ其嫉少ハコレアリ依ラ医者ヨリ輕薄ヲイタセノト
気味ヤイノマワシク存シ彼是ト甲シ候ハ只欲心尊敬ヲ
好ムヤトアジニキトリ実ニ申シ書ニカタキ事トモ有之

平日用向ノナキ時ハ少シモ早ク長屋ハ歸リ嬉欲而已ニ耽リ
病氣ノ節ハウ様ノト申ス事ハ少モ不思病氣ナレハ出入ノ
町人誰レサマハ切者或懇意ノ者来リ何ノ誰ハ切者杯ニ迷イ
物入費多シ此ノ心持ヲ自然ト主人ヘモ移シ是レ口外ナラ
サル心ナリ日々ノ用向ト申ス大平ノ世ナレハ何ニホトノ事ヤ
アラシ月々主人初医者ノ評義ハアルキ事又主人ノ申ス事ヲ
善惡ノ毎差別ヘイリト申ス者ハ毒ニモ業ニモ不成少ツト
返答返ハ失禮ナレトモ主人ノ為ナレハ可申カ主人モ不心得
事ハ隱密ヲ以尋知ルヘシ符合ノ時ハ心得可有事右ノ趣
等ヲ考合スレハ樂ヲ重ク死ヲ軽ク存シ此之謂生經也

良医ノ心 医者仁術ハ慈悲之愛者徳心博愛之謂仁矣

孔子曰西方之人有聖者是謂菩薩ハ佛法教
人為善沮惡之言也

孔子以三綱五常為先号先淨菩薩

老子以謙恭慈儉為先号迦葉菩薩

顏淵德行不以貧窶動心而求富号月光菩薩

釋迦牟尼以慈悲方便為先即為仁便以定

仁儀礼智信也五業救人則菩薩也

庸医ノ心

服藥ニモ不及者ニ藥ヲ勸メ心ニヲホヘナキ

病澄モ探リ療治イタシ二十四脈ノ文字ハ

誦シテ應子シテ心ニハ不覺巧者ワリ多辨ニ

言廻シ投薬是レヲ野師ト云病人ヲ擇リ嫌ヒ
病家ノ貧富ヲ差別イタシ只金子ホシヤト
思フモノ是レ等ハ医者デナク異行者ト云
菩薩テナク暮、殺ト云カ 殺去声

爲業信実アルホト心痛不堪依テ氣ハ保養專一トスヘシ
高位ノ外氣兼シテ出會ハイラヌ事カ今日平々タル人ノ
糸會ヲ見ルニ氣ノマワラカニ直ナル者ハ氣ノアラキ
肝積モ子ニヲサレ終ニハ直ナル者氣ツカヒ身ニ損アリテ
益ナシ道路大ノ咬合ヲ見ルヘシ互ニ毒礼エナリ人間ハ
イツモ不相替ヲ以テ爲貴然ルヲ吾ガ肝積ニマカセテ
イヤミカラミヲ申シ他人ノ氣ニアタリ則犬ナリ是レヲ

堪忍スレハ短命疑ナシ自分ヨリソロソト塩梅ヨク疎遠
イタスヘシ是レヲ延年ノ術ト云諸士モ此ノ意味ヲ可考
二三十年未東西ヲ遠行見ルニ欲多キ人ハ利ヲ求ルカ
エヘニ心苦ミ我トモヤシテ身ヲコカシ死ス是レヲ復虫ト云
仕官ノ者ナドハ泰平ノ御代ニ生レシ身ノホタノモシキ事ハ
不思シテ人ヲ侮リ穢リ在命幾許

朝有紅顏跨世路暮乃白骨朽郊原

予非惟空宗通邪解不知医之本心故記之也恨人情逝於邪
如是者不レ會未レ曾仁仁又未レ義義焉處惡予不可不預知恐也

皆人ノ命ハナカクイケラマシ

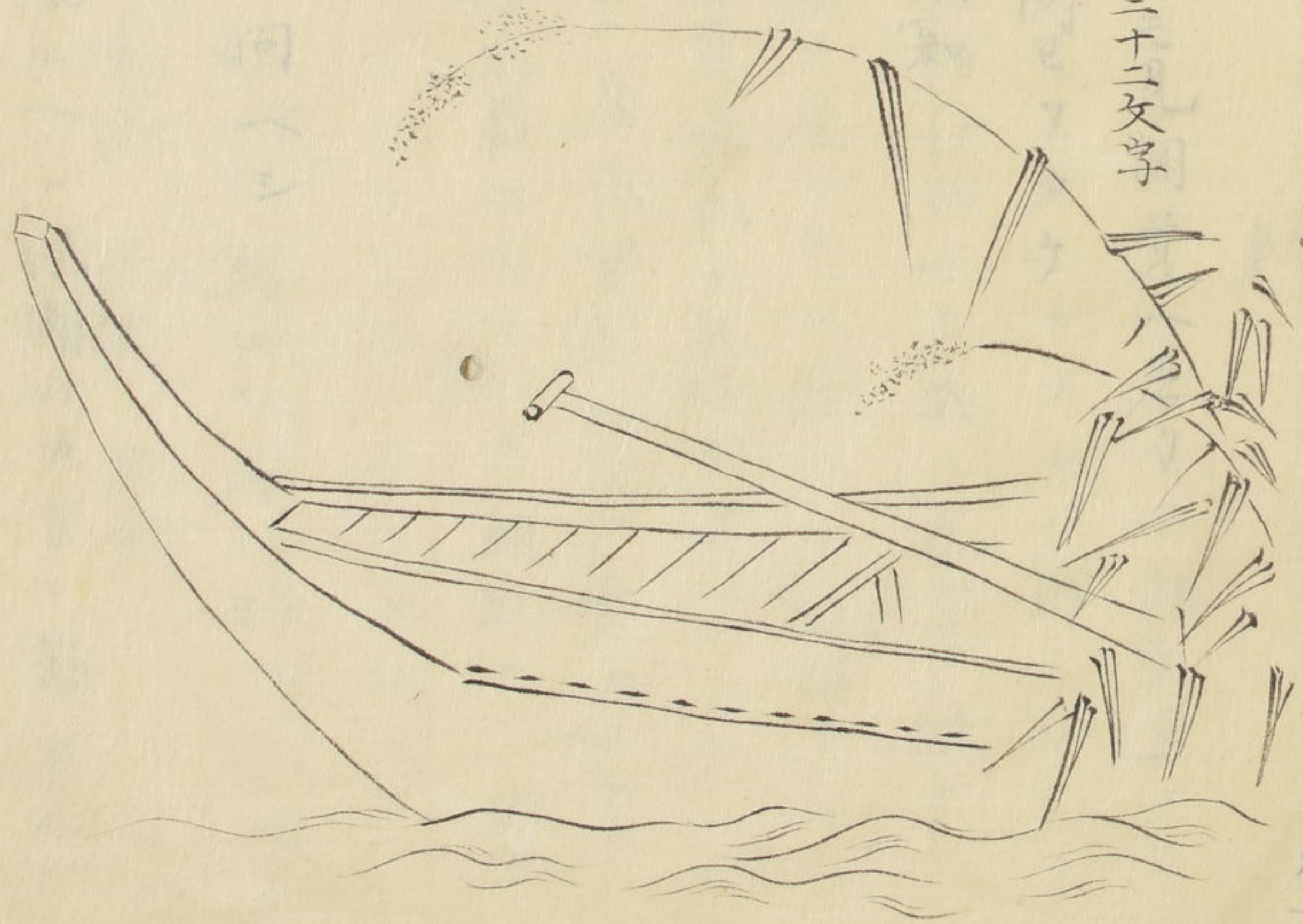
ヨシヲモカケノカワリハツトモ

愚昧ナル者譬如蚯蚓唯知一尺ノ地中食泥之樂不知蒼龍深
躍海淵飛騰在天鳴呼

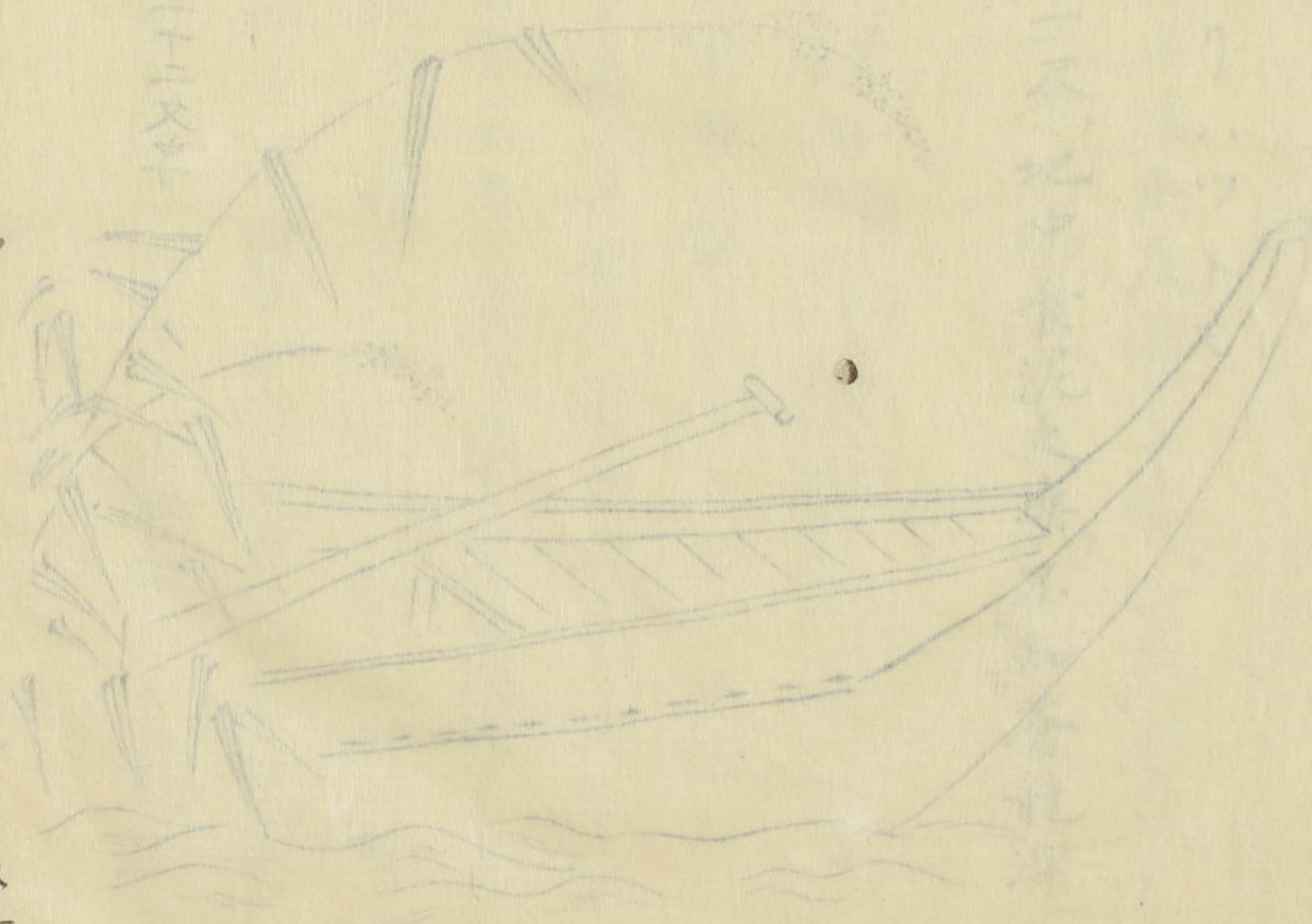
[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

此ノ船ニ饅頭アリ直段ハ和歌ト子ガイ三十二文字
委シキ事ハ永久橋ニテ問ヘシ

イッ猪牙ニ鴻雁ナシノ
地北ヨリ



毒ニキ事ハ衣人計ニ同シ
此味・對照ニ直列ニ味類ニ十下ニ三十二文



小兒ノ義ハ不案内ニ候ヘトモ見聞覚一居リニ計本家ナリ
記スロノ起^趣ヲ小兒醫師ヘ問ヒヲカケヤチヤハ蘇^イマド
用ニモ足ル一干此外ハ不知^イ水^イ中^イへて^イ次^イハ^イ西^イ遊^イニ^イ卧^イナ^イ

草疳ハ 色青ニ

赤疳ハ 色赤也

五疳 愛腹ハ 三色紫也

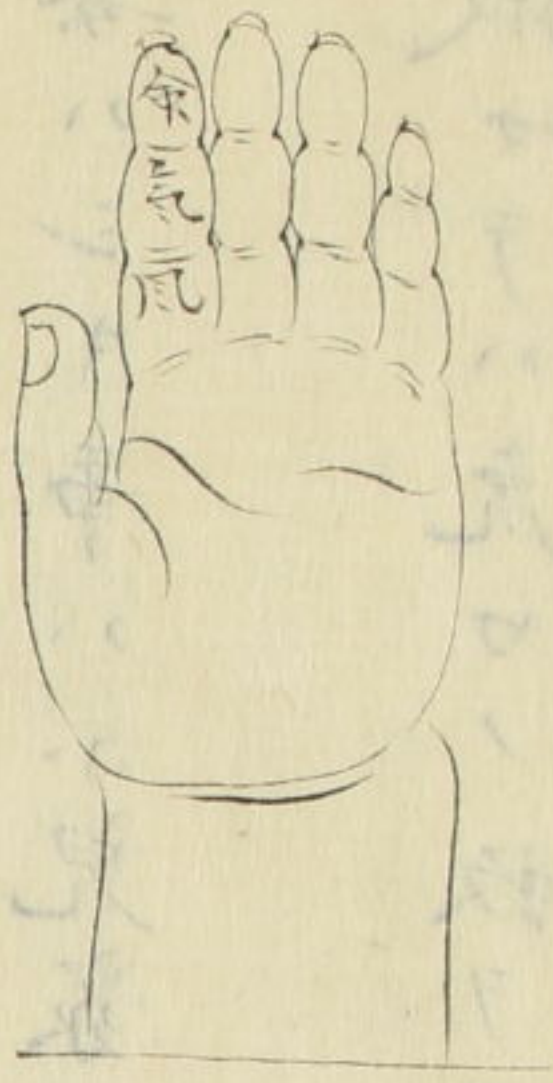
疳疔ハ 病火也

疳冬ハ 病水也

右委ハシキ事ハ小兒家ヘ問ヘシ

三歳マデハ虎口ノ紋ヲ見ルヘシ
風^イ陶^イバ^イカ^イリ^イニ^イ筋^イア^イル^イハ
治^イシ^イヤ^イス^イシ^イ氣^イ陶^イ命^イ陶^イト^イ下^イヨ^イリ^イ上^イ一^イ青^イ黒^イ紫^イノ^イ筋^イア^イラ^イワ^イレ

出ルハ多クハ難治



命關 氣關 風關
是レヲ虎口ノ紋ト云

小兒ハ啞^ア科^ハト云テ唇ト同シ疾痛モノイハズ脈理ナラ全タ
カラズ生シテ三十二日毎ニ臍府智慧一タビ變スルナリ
十變シテ臍府全シ況マ虚實療治ナトシカタシ

臍^ハ風^ト撮^ル口^トトシ小兒臍ノ新時外邪入テ右ノ病證ニ相ナリ
古一ヨリ葉方コレナク齒^ハグキニ小サキアハ粒ノヤウニ
出来候アヒダ乘ノ木ノ煎シキヌコレヲヒタシ指ノ先キヲ

包ニ捏^ルトト齒^ハグキ舌ノ上ヲ洗ヘシ様子ニヨリ紫^ハ円^ナナド
ヲ用ユヘシ

小兒生シテ三四日ノ内臍ノ尾ハナレ候ハク熊胆ヲサシ
臍ヘ付テ灸治スヘシ其ノアトヘ又ニ熊胆ヲヌリヲクヘシ
マクリ

黃連 甘草^{ホク} 大黃^{オウ} 三味^{サミ} フリ出シ用ユヘシ
辰砂^{チンサ} 蜜^{ミツ} ニテヤワラカニ煉リ七夜マテノ内澤山用ユ
ヘシ大便ヘ赤ク出候ヲ吉トス

春ノスヘ夏ヘカケテ出生ノ小兒ハ口中一面舌マテ白キ物

出来是レヲ白鷺瘡ト云指ノ先キヲ麻ノキレニテ包ミ湯ニテ
再サン洗ヘシ丸スレハ白キモノ麻キレニ少ツク付出ル
小兒白鷺瘡ノ方 石膏^三 辰砂^ト 芒硝^ト

右ハ水ニテトキ一日ニ五六度足ノ裏一面ニ付入シ

小兒ヲ診察イタシ候ニハ先ツ額ヒニ手ヲアテ口中ハ指ヲ
入レ熱ヲウカミヒ臍下ノハリヲウカミヒ脈ハ四五支ヨリ
診候生長ノイキヲヒ有ルユヘ何レモ細數クナリ此ノ外
ナキ声ノ強弱ヲ考ヘ膝理ノ形ヤウノ察シ大便青色ナル
事ヤリ是又疳ト可知手足シクイニヤセ腹ハカリ張り湯キ
ツヨク食ムシヤウニ進ミエレヲ脾胃ト云十人ニヒトリモ
先ツハ全快ナシ

小兒医者ハ瘡ヲ相子ニイタシ候ヘバイカニモ気分正シク
仁心專ラ心得ヘキ処ニ我が身分エヤウニホコリタク心抵
而已ニテ病家先キ賤主貧家ノサヘツライタシツコノニ
診ヒ弁舌ニハヨイカケニニ空言ヲ吐キ病氣全快僥倖ト
云ハシ病死ハ因縁ツクトスマシ大人家ト違ヒ親子ノ思愛
カク別謝礼モ親ノ悦ヒニ余リアリ以氣質之偏物欲故則
有不能達所不能則仁義ノ外ナシ

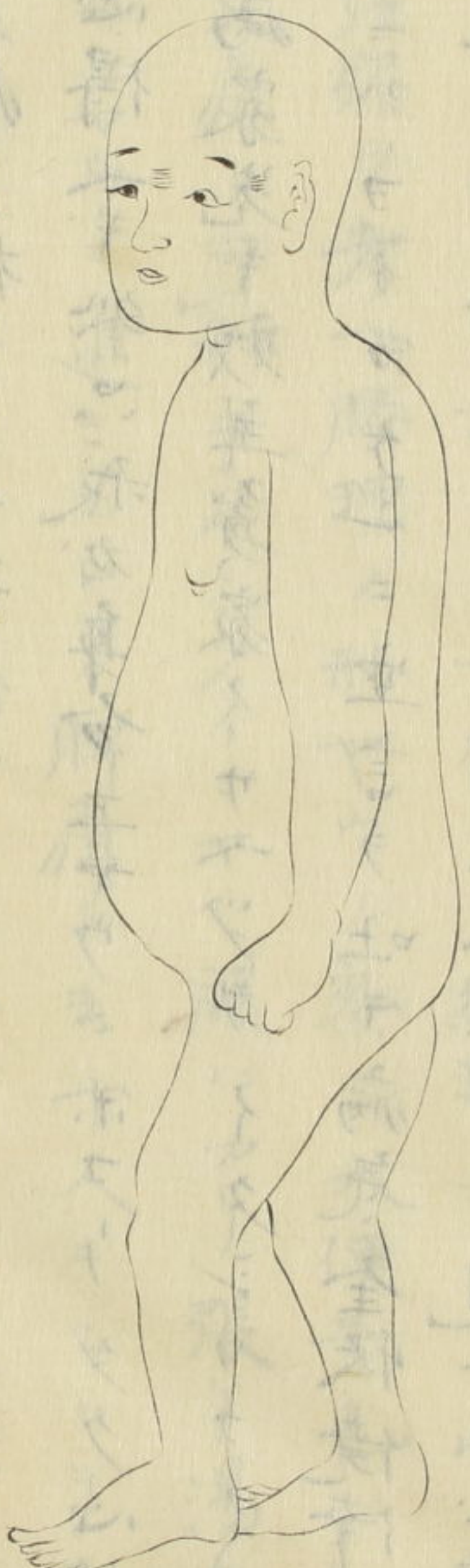
ハエバツテバアユメト子ヲ思フ
吾が身ニツモルヲヒハワスレテ

東照宮御由緒水野下野守茅田六左衛門浪人シテ西国へ
趣候セテ路次ニテ宿ヲ借り宿賃コレナク夜中卧候テモ

目モアハズ心痛思業ノミ仕候内宿屋ノ小兒泣入候ヲ兼リ
惣身ノ垢ヲヒ子リ丸茶ニ仕置亭主呼出シ小兒ノ啼ヤウ
一通リニテハコレナク幸ニ丸茶モ合セツカワスヘキ
亭主甚悦ヒ早速用ヒ泣ヤミ翌朝謝礼ニ鳥目ヲ送り心若シ
ニ思業工風ハアルヘキ事

思フ子が便フモ人ノ思フ子ヨ

我が思フ子ト思ヒクラヘ口



如此眉毛ノ間鼻ノ上ニ青筋出テ目ノニリニモ出ルナリ

痺トシルヘシ腹ハ臍下ノ張りツヨキヲ吉トス

知子不若干親云事コレアリ予が存ニ候男女二十有余ニテ
相果テ候者五六人コレ有リイツレモ女智聰明ニテ甚タ
ヲシムヘキ事ナリ是レ等ノ父母ノ氣配ヲミルニ至テカタ
ヘシ屈ニテ若シヤ身持不埒モ有ルヘキトテ朝夕心ツケ
女子ハ縫針男子ハ学問ノミニ心勞イタサセ其ノ氣質之
稟タル事女智ナルモノハ寡居獨陰毎陽怒心萌而不遂是
以寒熱徂来病根ト相ナリ親子ノ情愛悟ヲサルニハアラス
実ニ害アル事ヲシメス男女トモニ物ホト陽怒ノキガシ
ハヤヲ女子ハ戯場ヲ見物イタサセ宿ニハ何ニナリト音声ヲ
習ラヘシ男子ハ北樓ヘツカワスヘシ女子ハ十四歳ニメ

天癸至リ色慾嗜事多クシテ抑鬱甚シク病ニ深固ナリ肺ノ
藏ハ声音ノ出ル処ニ欲^{ケツカイヤ}窒碍トコレアリ耳ニ音聲入り候ハ
自ラ心ニ通ス心ニ通スレハ氣モヒラキ鬱シテモ病深ニモ
イタルマジクヤ男子モラシテ知ルベシ諸事ノマリ多聞
多難多難眩真不眩焉在在子擇入アマリヘシ屈スキ其ノ上
貪欲瞋意思慮ニシテ子供ノ情相モサハラス親子ノ中ニモ
雨露ノハナレト云事コレ有リ乃ニモハナレアシキハ行届
カタク心得ヘキ事欲存其家以修身者ハサトルヘシ
三十一文字母ハ子ギミツカト思ハ
初ノヲムカナ親父ハシカリツケ

也

婦人産前ノ年當ニハ七味正氣散ヲ少ツク用エベシ人參
相應セザルニハ去ルヘシ婦人実證ナラハ用ユルニモ不及
寒氣ノ節ハ見ハカラヒ可然^{ニハ}七味平氣散^{ニハ}
七味平氣散

- 人參
- 白朮
- 沉香
- 當歸
- 川芎
- 芍藥
- 各等分
- 甘草少シ

右乃未白湯煎テ用エ

安産イタシ胞衣不下トモ必ス驚ツヘカラズサトロクユヘ
尚サテ滞リ候一日モ滞リ候ハマフノリニ聖母ヲウシ入レ
茶碗ニ一盃ホド用エヘシ

産婦ムシクツキ候ハマ神ノ種ヲ三ツ湯ニテ丸吞ヘシ胞衣

ノ滞リ候事コレナリ

安産トテモ産後桂枝茯苓丸ヲ煎湯ニテ用ユヘシ惡露ノ
コリ候ヘバ後リ患ナリ

桂枝茯苓丸

桂枝 茯苓 牡丹

桃仁

芍薬 各等分

右五味煎シ服ス

世上ニテ背一灸點ヲイタシ候ニ指ニテカヅヘ下ケ候バカリ
ニテ一脛ノ寸法ヲ不知ユヘ凡ニ記ス卷懷食鏡ニ推イコトニ
何寸トコレアリ相シレズ骨度正強ニ加勝後文委ク申述テ
コレアリ候ヘドモ口授ト是レアリ知レガクテ予カラボヘ
居リ候マシラシルス人ノ背骨ニ長短是レ有リ大推ヨリ

尾骶骨マデヲ三尺ト相定メ節數セツク二十一ナリ

大推

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一

尾骶骨

上ノ七節

中ノ七節

下ノ七節

上ノ一節長サ一寸四分一厘七節合テ九寸八分七厘
中ノ一節長サ一寸六分一厘七節合テ一尺一寸二分七厘
下ノ一節長サ一寸二分六厘七節合テ八寸八分二厘

細キ紙ニテ大推尋尾骶骨マデ人寸ヲトリ是レヲ三ツニ
ツリ先ノ通り一ヌク計ヤニニテ一尺一寸八分ナリ



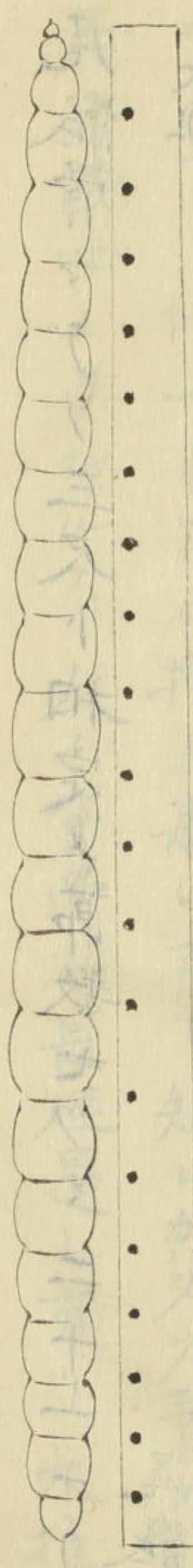
右ノ如ク三ツニツリ三ツヒトワラ一尺ノ物サシニコシラヘ

カクノ如ク一尺ノ物サシ

別ニ細キ紙ニテ大推ヨリ尾罷骨マテノ寸尺ヲヨシラヘ
丸ノ通り右ノ一尺ノ物サシニテ上ヨリ九寸八分七厘ト
寸ヲトリシル直ニ其下一尺一寸二分七厘トシルシイタシ
又下ニ八寸八分二厘

九寸八分七厘ト
一尺一寸二分七厘ト
一尺一寸二分七厘ト
一尺一寸二分七厘ト

右ノシルシヨリシルシマテヲセツニテサスレバセツニ
三ツユヘ三七二十一トナル此ノ紙ヲ左ノ通り背骨ヘアテ
骨ノ刻ヲ見ルヘシ



上ノ七節ハ中ノ七節ヨリミジカク
中ノ七節ハ上ノ七節ヨリナカク
下ノ七節ハ上ノ七節ヨリミシカシ
右ノ通り背骨ノ刻ニテ灸點ヲシルスヘシ

